7.「播種性血管内凝固症候群」、「敗血症」、「その他の真菌感染症」、「手術・処置等の合併症」の発生率

「播種性血管内凝固症候群」、「敗血症」、「その他の真菌感染症」、「手術･処置等の合併症」の患者数と発生率を集計しました。 DPC 病名と入院契機病名が「同一」か「異なる」に分類しています。
「同一」はある病気の診療目的で入院し、その病気の治療を主に行ったということを表し、
「異なる」はある病気の診療目的で入院したが、併発していた、もしくは入院中に違う病気が発症したことにより、その治療が主となってしまった場合を表します。

定　義

最も医療資源を投入した傷病名が播種性血管内凝固症候群(DPC コード:130100)、敗血症(DPC コード:180010)、 その他の真菌感染症(DPC コード:180035)、手術･処置等の合併症(DPC コード:180040)について患者数をカウントし、全入院患者に対する発生率を掲載する。(DPC6 桁分類とする) 発生率はそれぞれの患者数÷全入院患者数×100 とし、小数点以下第 2 位まで掲載する。

● 指標に示されるそれぞれの用語は以下の通りです。

◇DPC6 桁分類（DPC ｺｰﾄﾞ）：14 桁ある DPC コードのうち、上 6 桁で病名が表されるコードです。
DPC コード 6 桁で表示される場合は 病名による分類を表しており、医療行為などは含まれていません。

◇播種性血管内凝固症候群（DIC）：感染症などによって起こる、全身性の重症な病態です。何らかの原因で全身の血管が傷つき、それを修復するために血液凝固物質が大量に消費され、その結果血が止まらなくなったり、血の塊で内臓を痛めたりする病態です。

◇敗血症：感染症によって起こる、全身性炎症反応の重症な病態です。人間の体は細菌などの感染がおきても局所でとめようとして反応します。しかし、体の抵抗力が下がってくると細菌が血管の中に侵入し増殖します。これが敗血症です。

◇手術・処置等の合併症： 手術や処置などに一定割合で発生してしまう病態です。術後出血や創部感染などが挙げられます。 合併症は、どのような術式でもどのような患者さんでも、一定の確率で起こり得るものなので、 医療ミスとは異なります。

◇入院契機： DPC コードにて分類される主病名とは別に、入院のきっかけとなった病名(入院契機病名)が それぞれの患者さんにつけられます。

◇発生率： 全入院患者さんのうち、該当の病気を発症した患者さんの割合です。

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	－	－
		異なる	31	0.50%
180010	敗血症	同一	－	－
		異なる	14	0.23%
180035	その他の真菌感染症	同一	－	－
		異なる	－	－
180040	手術・処置等の合併症	同一	20	0.32%
		異なる	－	－

解　　説

播種性血管内凝固症候群（DIC）の原因は、悪性腫瘍や消化器疾患、重症感染症があります。DIC、敗血症ともに当院の入院は比較的高齢の方が多いのですが、食事療法やリハビリ等の支持療法を有効に活用しています。

手術・処置等の合併症では、消化管手術後の吻合部狭窄が多く、他に創部の感染症や術後の出血などがあります。治療中は合併症が起きないように細心の注意を払っていますが、どうしても一定の確率で起こり得ます。事前に可能な限り患者さんに説明したうえで、手術や処置の施行に同意いただくよう努めています。